

経営協議会議事要旨

1. 日時 令和5年11月21日(火) 13:28~14:30
2. 場所 弘前大学創立50周年記念会館2階「岩木ホール」
3. 出席者 福田(学長・議長)
岡井, 木村, 櫛引, 九戸, 小谷, 須藤, 永澤, 中林
若林, 岡本, 郡, 曾我, 橋本, 袴田, 安川の各委員16名
- 欠席者 今井委員1名
- 陪席者 山内監事, 吉田監事, 佐野理事, 柏倉学長特別補佐, 杉原国際連携本部長, 加藤法人内部監査室長, 岡崎理工学研究科長(報告6のみ)
- 事務部陪席 太田総務部長, 浅利財務部長, 山口学務部長, 赤石施設環境部長, 古館研究推進部長(兼)社会連携部長, 中野医学部附属病院事務部長, 今国際連携本部調整役, 金沢総務企画課長, 工藤広報・情報戦略課長, 後藤人事課長, 九鬼財務企画課長, 長谷川財務管理課長, 佐々木契約課長, 三浦研究推進課長, 坂本医学部附属病院経営企画課長

4. 配付資料

経営協議会委員名簿(令和5年10月1日現在)

- 資料1 【事前配付】令和5年度弘前大学予算実施計画の変更について(案)
- 資料2 【当日配付(要回収)】土地(弘前市学園町)の寄附受け入れについて
- 資料3 【事前配付】大学院学生募集チラシ
- 資料4 【事前配付】医学部の収容定員の増加について(通知)
- 資料5-1 【事前配付】令和4事業年度 組織評価の結果等について
- 資料5-2 【事前配付】令和4事業年度 組織評価に係る部局ヒアリング学長・各理事の評価コメント一覧
- 資料6 【事前配付】令和5年度医学部附属病院の経営状況について
- 資料7 【事前配付】令和5年度内部監査結果報告書
- 資料8 【事前配付】弘前大学リチウム資源総合研究機構について(補足説明)

5. 議事

議長から、6月20日開催の議事要旨(案)の確認及び9月20日、10月17日の紙上会議の結果報告が行われ、原案のとおり承認された。

○審議事項

審議1 令和5年度弘前大学予算実施計画の変更について

岡本総務担当理事から、資料1に基づき、令和5年度弘前大学予算実施計画の変更について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

審議2 土地(弘前市学園町)の寄附受け入れについて

岡本総務担当理事から、資料2に基づき、土地(弘前市学園町)の寄附受け入れについて説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

○報告事項

報告1 大学院保健学研究科心理支援科学専攻(修士課程)の設置について

若林企画担当理事から、資料3に基づき、大学院保健学研究科心理支援科学専攻(修士課程)の設置について報告があった。

報告2 医学部の収容定員の増加について

若林企画担当理事から、資料4に基づき、令和6年度医学部の収容定員の増加について報告があった。

報告3 令和4事業年度 組織評価の結果等について

若林企画担当理事から、資料5-1及び資料5-2に基づき、令和4事業年度組織評価の結果等について報告があった。

報告4 令和5年度医学部附属病院の経営状況について

袴田医学部附属病院長から、資料6に基づき、令和5年度医学部附属病院の経営状況について報告があった。

報告5 令和5年度内部監査（特定監査項目）の結果について

加藤法人内部監査室長から、資料7に基づき、令和5年度内部監査（特定監査項目）の結果について報告があった。

報告6 弘前大学リチウム資源総合研究機構について（補足説明）

岡崎理工学研究科長から、資料8に基づき、弘前大学リチウム資源総合研究機構について説明があった。

○質疑応答（□：学外委員 ○：学内委員）

1 令和4事業年度 組織評価の結果等について

- 学長・各理事の評価コメントへの各部局の対応状況をどのように確認するのか。
- 評価の方法として、各部局がアピールポイントを文書で提出した後、ヒアリングを行い評価することから、次年度のヒアリングで確認することになる。

- 人文社会科学部と教育学部が低め、医学研究科と理工学研究科が高めの評点となっているが、例年このような傾向があるのか。また、その理由を教えてください。
- 今回の状況が恒常的なわけではない。今回、医学研究科と理工学研究科は企業との連携が進んだことにより評価が高くなった。人文社会科学部と教育学部はコロナが大きく影響したと考えられる。
- 人文系は評価が難しいが、奮闘している。

- 研究は経済効果や世の中の役に立つことをやらなくてはいけないと考えられがちであるが、弘前大学は基礎研究を大事にするという姿勢を評価の形で残すというと思う。
- この評価は組織評価なので、連携等のコメントが多くなっている。基礎研究の支援は特に科学研究費の支援として行っている。すぐ世の中の役に立つような研究以外の研究への支援や若手研究者への支援なども強化している。

- 教育学部のコメントに出てくる「次世代ウェルビーイング研究センター」について、どのようなことが期待されているのか教えてください。
- 全国的に人口減少が進んでいるが、青森県は先んじて人口減少が進んでいくと思われる地域であることから、教科の在り方など、人口減少を踏まえた教育の課題解決の取組みが未来への教育の提言となることを期待しているものである。
- 教科の枠を超えた教育のようなことができる柔軟な新しい組織を作るのはいいことだと思う。

2 弘前大学リチウム資源総合研究機構について

- これぞ大学の醍醐味と言える最先端の研究を知ることができた。この機構のような新しい組織ができた時には、大いにアピールすべきだと思う。

以上